



年間を通じ、自己研鑽しています

日能研関東グループでは、外部研修参加を推進しています。目的は、「社外からの刺激を受けて自分自身が変わり、仕事に活かすこと」。今年度は、参加した研修を、「私が参加した研修紹介」として、何が参考になったかを社内イントラで報告してきました。会社の紹介した研修もあれば、個人個人が探してきたものもありました。11月には会社主催の講演会、セミナーを開催。参加者は大いに刺激を受け、思索を深めました。

教育に科学的根拠を 『学力の経済学』著者 中室牧子氏講演会

2016年11月16日、中室牧子氏(慶応義塾大学総合政策学部 准教授)を招いての講演会。参加者は1時間半、熱心に耳を傾けました。

◆教育経済学の立場から

著書『「学力」の経済学』は25万部の大ベストセラー。経済学者の立場から語られる教育の効果にこれまでの思い込みを見直すきっかけとなりました。当日は正社員から、グループ会社で働くスタッフまで、参加者層が幅広く、感想も多様でした。

<参加者の感想>

- ・著書の購入者の8割が男性というのがとても印象的だった。男性はデータなどを根拠に合理的に考えるの好きで、女性は経験談などの身近な話が好きなのかなあと感じた。今後保護者会や面談などで、父親か母親か、どちらのタイプなのか判断してアプローチしていこうと思う。
- ・今、日本はどこに投資すべきかという点では「就学前教育(幼児教育)」が重要とのこと。特に「非認知能力」を幼い頃に鍛えた方が良く、「自制心」「GRIT」を身に付けさせるように、という点が印象に残った。
- ・良い教師とは付加価値を与えられる人。まさに、保護者から期待されていることがそこなので、そういう存在になれるよう日々精進しなければならないと思った。
- ・「教育は自分の経験を語られがち」ということを保護者に伝えていきたい。
- ・教育を科学的に研究し、政策を結果として評価する部分は面白く感じた。我慢する力、やり抜く力も計測できるのなら、社会実験で計測できないものはなんなのだろうか。政策は別として個人は費用対効果の高いものへの投資のみで良いのだろうか。
- ・海外の実験データについての話が多かったので、参考になる部分を選択して、今後の仕事に役立てたい。
- ・今後、日本の学力テストのデータが公開されるように制度が変化し、費用対効果のある学習につながってほしい。



「学習障害とアスペルガーの実際」 (株)MOF代表取締役社長 前田利恵子氏講演会

2016年11月21日、日能研関東本社にて、前田利恵子氏によるセミナー「学習障害とアスペルガーの実際」を実施しました。

◆発達障害をもつ小中学生は6.5%

発達障害をもつ子どもは、小中学生の約6.5%を占め、グレーゾーンはその約3倍であると言われています。私達も日々多くの子どもたちと接する中で、学習障害など、さまざまな症状であられる「発達障害の特徴」や「症状の定義」に関心を寄せる職員が多く、また、ご家庭から申告いただくと、対応に悩んだりすることが少なくありませんでした。そのため今回、「医療と家族の心理ケア」がご専門の前田利恵子さんのお話をうかがいました。当日の講演会は、次のとおりでした。

- ◆発達障害・アスペルガーとは。
- ◆知的レベルが高い子どもと発達障害の関係。
- ◆ほめ方、叱り方、怒り方、励まし方と適切な言葉。
- ◆診断がついていない子どもの保護者への対応方法。

参加者からは、発達障害の子どもや保護者との接し方が分かったという声が多くあがりました。

<参加者の感想>

- ・我々はカウンセラーではないものの、常に相手の話を「聞く」立場であることに変わりない。「三角関係」など、実践できることも多くあり実になった。また、「アスペルガー」や「発達障害」と思し子どもたちの言動はまさにお話の通りであり、実感を持って聞くことができた。グレーゾーンの子たちも多く、判断をしてしまうのは早計かとは思いますが、「素行の問題」と考えずに相手に対して歩み寄ることができそうだ。
- ・アスペルガーや学習障害を抱える子どもたちというのは非常に繊細であり、子どもの数だけ発達障害の種類があるという言葉がとても印象に残った。子どもに合った対応を慎重にしていかなければならないと感じた。

